

北海道教育委員会教育長 様

北海道帯広三条高等学校長 合 浦 英 則

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

'授業改善による学力向上 ～「学びの3乗プラン」の推進 (1) 主体的な学びによる学力の向上と進路実現 (2) 生徒の自主・自律を柱とする人間性を育む教育の充実 (3) 地域と協働した探究活動の推進
--

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善のための研修等に力を入れ、生徒に自主的・発展的な学習を喚起する工夫がより必要である。	スタディサプリをはじめとするICTの活用を積極的に進め、教員が積極的に研修し、指導力向上に努め、更なる授業改善に向けた取組を展開してほしい。
改善方策	地域との連携や探究活動をより積極的に推進し、適切に分析・情報共有することで授業改善に結びつけるよう努める。また、授業改善に直接つながる研修テーマを設定し、研修内容の充実を図ることで、教職員全体で共通理解を図り、組織的に取り組む。	
生徒指導	事件や事故の未然防止という視点に立ち、SC及び関係機関との連携を強化できた。また、各年次や生徒支援部と連携した粘り強い取組が継続できた。	引き続き、主体性を育む教育活動の充実を図ってもらいたい。生徒指導に係る教員の自己評価は低く出ているように感じる。
改善方策	ネットやSNSの利用法及びその危険性など、生徒の内面に寄り添った教育を推進しながら、生徒の自主・自律を促す取組が一層組織的に行われるよう各年次・生徒会指導部・生徒支援部と連携しながら推進する。	
進路指導	分掌と年次が協働しながら、生徒個々の目標を明確にさせた上での進路指導の実現を目指している。今後も生徒一人ひとりに3年間を見通した進路計画とキャリア教育プランを大切に指導する。	生徒の能力に応じた個別指導を的確に行うとともに、年次と進路指導部の情報共有を増やし組織として取り組むことが大切である。外部人材を活用した探究的な学びの実現は素晴らしい。
改善方策	「年次内の情報共有」から「教職員全体での情報共有」へと繋がるよう、進路情報の提供を意図的に行う。また、教科横断的な探究活動を進めることでキャリア教育の充実へとつなげていく。	
健康・安全指導	生徒支援部を中心に、課題を抱える生徒に対する情報交換や外部機関との適切な連携を図ることができた。	支援を必要とする生徒への対応は、今後も引き続き、生徒支援部を中心に、組織的かつ丁寧に対応してもらいたい。
改善方策	生徒支援の観点からスクールカウンセラーとの連携を強化しながら推進する。	
信頼される学校づくり	ホームページの利用と活用が改善された。情報発信を引き続き進めたい。	不断の検証を続けながら、社会に開かれた学校づくりを進めてほしい。
改善方策	学校評価のPDCAを適切に職員に環流し、年度当初の学校経営方針に到達目標をできるだけ具体的に定め、定期的に確認しながら、検証と改善を継続していく。	
組織運営	「シフト制」が定着し、「働き方改革」に向けた教職員全体の意識を高めることができた。今後も引き続き、適切な業務分担と取組が必要である。	働き方改革を「生き方改革」と捉え、個人としての時間、仕事の効率化の両面から進める。部活動の時間の短縮については進んでいると感じる。
改善方策	働き方改革の意図を適宜確認し、「複数担任制」や「シフト制」等の良さを活用しながら、業務の抜本的な見直しによる平準化を推進する。	
公表方法	学校Webページに掲載すると共に、学校評議員会及びPTA役員会等で周知する。	

3 添付資料

- (1) 令和5年度 職員自己評価
- (2) 令和5年度 保護者学校評価アンケート結果
- (3) 令和5年度 学校関係者評価

令和5年度学校評価（教諭自己評価）結果

	大いにできた		ある程度できた		あまりできなかった		全くできなかった		計	回答数	平均
①本校の教育内容は生徒の実態や保護者、地域の期待や要望を踏まえたものになっている。	10	40	40	120	1	2	0	0	162	51	3.2
②各教科内で情報の共有を進め、効率的な教材研究をする。（個）	18	72	27	81	5	10	0	0	163	50	3.3
③「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を進める。（個）	11	44	32	96	7	14	0	0	154	50	3.1
④ICTを活用した授業（視聴覚機器の使用、スタディサプリの活用を含む）に取り組む。（個）	14	56	23	69	13	26	0	0	151	50	3.0
⑤授業改善に向けた研修に取り組む。（個）	14	56	33	99	3	6	0	0	161	50	3.2
⑥生徒理解をベースに、生徒一人ひとりに指導や支援をする。（個）	15	60	32	96	4	8	0	0	164	51	3.2
⑦他者を尊重し、いじめを許さない態度育成（人権教育、ネットリテラシー含む）に取り組む。（個）	16	64	31	93	4	8	0	0	165	51	3.2
⑧生徒の自主・自律を促す取組を組織的にする。	6	24	39	117	6	12	0	0	153	51	3.0
⑨生徒の主体的活動を進めつつ時間の有効活用を進める。（個）	8	32	31	93	10	20	0	0	145	49	3.0
⑩生徒、保護者と担任、年次、進路指導部と連携した進路指導をする。	13	52	34	102	3	6	0	0	160	50	3.2
⑪個々の目標を明確にさせた上で進路指導を実施する。（個）	11	44	30	90	9	18	1	1	153	51	3.0
⑫探究的な学びを推進するために外部人材を有効活用する。	19	76	26	78	4	8	2	2	164	51	3.2
⑬生命の尊厳と自己管理の大切さを説く指導を日常から行う。	9	36	39	117	3	6	0	0	159	51	3.1
⑭問題を抱える生徒に対し、校内での情報交換や外部機関と連携を図り、適切な情報提供と支援を行う。	13	52	37	111	1	2	0	0	165	51	3.2
⑮働き方改革の意図を理解し、自らも意識して取り組む。（個）	12	48	28	84	11	22	0	0	154	51	3.0
⑯メール配信や学校ホームページ等を有効に活用し、情報発信を行う。	12	48	30	90	8	16	1	1	155	51	3.0
⑰学校課題の解決のため、前年度の学校評価に立脚した取組を行う。	8	32	35	105	8	16	0	0	153	51	3.0
⑱学校課題と目指すべき姿を共有し教育活動に向かう。	10	40	34	102	6	12	0	0	154	50	3.1
⑲教員理解に基づいた役割や業務分担ができています。	12	48	35	105	4	8	0	0	161	51	3.2
⑳教員間の情報共有と協働する雰囲気を作る。	14	56	30	90	7	14	0	0	160	51	3.1
㉑管理職から教職員への適切な指示と情報伝達が行なわれている。	19	76	30	90	0	0	2	2	168	51	3.3
㉒新カリへの対応、授業力の向上に向けた校内研修を実施する。	14	56	32	96	5	10	0	0	162	51	3.2
㉓積極的に研修に参加し、自らの資質・能力を高める。（個）	14	56	28	84	8	16	1	1	157	51	3.1
㉔服務規律・法令遵守に努める。（個）	37	148	14	42	0	0	0	0	190	51	3.7

令和5年度 帯広三条高校 学校評価アンケート(保護者)結果

A : 十分（そう思う） B : おおむね十分（そう思う） C : 不十分である（あまり思わない）
 D : 改善を要する（全く思わない） E : よくわからない
 （A = 4, B = 3, C = 2, D = 1 として評価の平均値）

No	評 価 項 目	今年度 (昨年度)
1	本校の教育内容は、生徒や保護者の期待や要望に応えている	3.1 (3.1)
2	生徒の主体的な学びにつながる授業を行い、学力の向上を図っている。	3.1 (3.1)
3	学習と部活動を両立させる適切な指導が行われている。	3.1 (2.9)
4	他を思いやりいじめのない公平公正な行動のできる生徒を育成している。	3.1 (3.2)
5	生徒の主体的な活動を促し、自主自律の態度を養っている。	3.1 (3.1)
6	生徒理解を基に家庭と連携して組織的な生徒指導や生徒相談が行われている。	3.0 (2.9)
7	生徒の進路意識を高め、生徒自らが進路選択できるよう指導している。	3.2 (3.0)
8	ホームページ、学校通信『木蔭静けく』、学年通信などを活用して、学校の教育活動や情報を積極的に発信している。	3.0 (3.0)
9	健康と安全に関する教育が適切に行われている。	3.1 (3.0)
10	本校に入学させてよかった。	3.4 (3.4)

回答数 198 / 699 (28.3%)

令和5年度 学校関係者評価（学校評議員）

北海道帯広三条高等学校

評価方法について

→教職員による自己評価の適切さについて、自己評価結果を参考に、右の欄「自己評価の適切さ」に A・B・C・D の四段階で評価してください。

評価の基準	A（適切な評価である）	B（ほぼ適切な評価である）
	C（やや不適切な評価である）	D（不適切な評価である）

なお、教職員の自己評価は4段階（4：そう思う、3：どちらかというと思う、2：どちらかというと思わない、1：そう思わない）で評価しています。

教職員による自己評価結果			
1 目標設定について	評価平均	項目評価平均	自己評価の適切さ
① 本校の教育内容は生徒の実態や保護者、地域の期待や要望を踏まえたものとなっている。 改善の方策等	3.2	3.2	3.4

2 学習指導について	評価平均	項目評価平均	自己評価の適切さ
② 各教科内で情報の共有を進め、効率的な教材研究をする。（個）	3.3	3.15	3.8
③ 「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を進める。（個）	3.1		
④ ICTを活用した授業（視聴覚機器の使用、スタディサブリの活用を含む）に取り組む。（個）	3.0		
⑤ 授業改善に向けた研修に取り組む。（個）	3.2		
改善の方策等			

3 生徒指導について	評価平均	項目評価平均	自己評価の適切さ
⑥ 生徒理解をベースに、生徒一人ひとりに指導や支援をする。（個）	3.2	3.1	3.4
⑦ 他者を尊重し、いじめを許さない態度育成（人権教育、ネットリテラシー含む）に取り組む。（個）	3.2		
⑧ 生徒の自主・自律を促す取組を組織的にする。	3.0		
⑨ 生徒の主体的活動を進めつつ時間の有効活用を進める。（個）	3.0		
改善の方策等			

4 進路指導について	評価平均	項目評価平均	自己評価の適切さ
⑩ 生徒、保護者と担任、年次、進路指導部と連携した進路指導をする。	3.2	3.13	3.6
⑪ 個々の目標を明確にさせた上で進路指導を実施する。（個）	3.0		
⑫ 探究的な学びを推進するために外部人材を有効活用する。	3.2		
改善の方策等			

5 健康・安全指導について	評価平均	項目評価平均	自己評価の適切さ
⑬ 生命の尊厳と自己管理の大切さを説く指導を日常から行う。	3.1	3.1	3.8
⑭ 問題を抱える生徒に対し、校内での情報交換や外部機関と適切な連携を図り、適切な情報提供と支援を行う。	3.2		
⑮ 働き方改革の意図を理解し、自らも意識して取り組む。（個）	3.0		
改善の方策等			

6 信頼される学校作りについて	評価平均	項目評価平均	自己評価の適切さ
⑯ メール配信や学校ホームページ等を有効に活用し、情報発信を行う。	3.0	3.0	3.8
⑰ 学校課題の解決のため、前年度の学校評価に立脚した取り組みを行う。	3.0		
改善の方策等			

7 組織運営について	評価平均	項目評価平均	自己評価の適切さ
⑱ 学校課題と目指すべき姿を共有し、教育活動に向かう。	3.1	3.17	3.8
⑲ 教員理解に基づいた役割や業務分担ができている。	3.2		
⑳ 教員間の情報共有と協働する雰囲気を作る。	3.1		
㉑ 管理職から教職員への適切な指示と情報伝達が行なわれている。	3.3		
改善の方策等			

8 教職員の資質向上について	評価平均	項目評価平均	自己評価の適切さ
㉒ 新カリへの対応、授業力の向上に向けた校内研修を実施する。	3.2	3.33	4.0
㉓ 積極的に研修に参加し、自らの資質・能力を高める。（個）	3.1		
㉔ 服務規律・法令遵守に努める。（個）	3.7		
改善の方策等			

その他ご意見等があればご記入ください。
（個）のアンケートにおいて、生徒に対して行うことの評価の低さ（3.0）が目立ちます。自己評価として、生徒に対する自身の物足りなさからの評価結果と捉えるならば、生徒に対してできることがもっとあると思っているのだと考えます。教諭自身の伸びしろがある、と期待します。

ご協力ありがとうございました。